

事務連絡
令和3年4月7日

購入者各位

(一社) 地域環境資源センター

農業集落排水施設のコンクリート防食の手引きの
正誤表の送付について

平素より当センターの運営に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、標記の書籍について、新たな修正箇所が見つかりましたので、正誤表の5頁を追加しました。

ご迷惑をお掛けし大変申し訳ありませんが、ご確認の程よろしく願いいたします。

農業集落排水施設のコンクリート防食の手引き 正誤表

令和3年4月

一般社団法人 地域環境資源センター

農業集落排水施設のコンクリート防食の手引き

下記の通り、追加がありましたので訂正いたします。

正誤箇所	誤	正																																																																																																			
手引き P.48 第2章 コンクリート防食の設計 2.7.3 防食被覆工法の品質規格	表 2-7-4 塗布型ライニング工法の品質規格	表 2-7-4 塗布型ライニング工法の品質規格																																																																																																			
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 15%;">種別</th> <th style="width: 20%;">1種</th> <th style="width: 20%;">2種</th> <th style="width: 25%;">3種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">基本的な性能</td> <td rowspan="2">耐硫酸性</td> <td>pH3の硫酸水溶液に30日間浸漬しても</td> <td>pH1の硫酸水溶液に30日間浸漬しても</td> <td>10%の硫酸水溶液に45日間浸漬しても</td> </tr> <tr> <td colspan="4">被覆にふくれ、割れ、軟化、溶出がないこと</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">遮断性</td> <td>硫黄侵入深さ</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td>10%の硫酸水溶液に120日間浸漬した時の硫黄侵入深さが被覆層の設計厚さに対し10%以下であること、かつ、200μm以下であること</td> </tr> <tr> <td>透水性</td> <td>透水量が0.25g以下</td> <td>透水量が0.20g以下</td> <td>透水量が0.15g以下</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">初期接着性</td> <td>標準状態</td> <td colspan="3" rowspan="2">2.0N/mm²以上</td> </tr> <tr> <td>吸水状態</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">温水浸漬後の接着性</td> <td>標準状態</td> <td colspan="3" rowspan="2">2.0N/mm²以上 ふくれ、はがれがないこと</td> </tr> <tr> <td>吸水状態</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">冷熱繰返し後の接着性</td> <td>標準状態</td> <td colspan="3" rowspan="2">2.0N/mm²以上 ふくれ、はがれがないこと</td> </tr> <tr> <td>吸水状態</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">工法に必要な性能</td> <td>外観性</td> <td colspan="3">被覆にしわ、むら、はがれ、割れのないこと</td> </tr> <tr> <td>耐アルカリ性</td> <td colspan="3">水酸化カルシウムの飽和溶液に30日間浸漬しても被覆にふくれ、割れ、軟化、溶出がないこと</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">注) 硫黄侵入深さにおける被覆厚さは、種別毎に防食被覆材料製造業者が設定する設計厚さとする。</p>		種別	1種	2種	3種	基本的な性能	耐硫酸性	pH3の硫酸水溶液に30日間浸漬しても	pH1の硫酸水溶液に30日間浸漬しても	10%の硫酸水溶液に45日間浸漬しても	被覆にふくれ、割れ、軟化、溶出がないこと				遮断性	硫黄侵入深さ	—	—	10%の硫酸水溶液に120日間浸漬した時の硫黄侵入深さが被覆層の設計厚さに対し10%以下であること、かつ、200μm以下であること	透水性	透水量が0.25g以下	透水量が0.20g以下	透水量が0.15g以下	初期接着性	標準状態	2.0N/mm ² 以上			吸水状態	温水浸漬後の接着性	標準状態	2.0N/mm ² 以上 ふくれ、はがれがないこと			吸水状態	冷熱繰返し後の接着性	標準状態	2.0N/mm ² 以上 ふくれ、はがれがないこと			吸水状態	工法に必要な性能	外観性	被覆にしわ、むら、はがれ、割れのないこと			耐アルカリ性	水酸化カルシウムの飽和溶液に30日間浸漬しても被覆にふくれ、割れ、軟化、溶出がないこと			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 15%;">種別</th> <th style="width: 20%;">1種</th> <th style="width: 20%;">2種</th> <th style="width: 25%;">3種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">基本的な性能</td> <td rowspan="2">耐硫酸性</td> <td>pH3の硫酸水溶液に30日間浸漬しても</td> <td>pH1の硫酸水溶液に30日間浸漬しても</td> <td>10%の硫酸水溶液に45日間浸漬しても</td> </tr> <tr> <td colspan="4">被覆にふくれ、割れ、軟化、溶出がないこと</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">遮断性</td> <td>硫黄侵入深さ</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td>10%の硫酸水溶液に120日間浸漬した時の硫黄侵入深さが被覆層の設計厚さ^{注1)}に対し10%以下であること、かつ、200μm以下であること</td> </tr> <tr> <td>透水性</td> <td>透水量が0.25g以下</td> <td>透水量が0.20g以下</td> <td>透水量が0.15g以下</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">初期接着性^{注2)}</td> <td>標準状態</td> <td colspan="3" rowspan="2">2.0N/mm²以上</td> </tr> <tr> <td>吸水状態</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">温水浸漬後の接着性</td> <td>標準状態</td> <td colspan="3" rowspan="2">2.0N/mm²以上 ふくれ、はがれがないこと</td> </tr> <tr> <td>吸水状態</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">冷熱繰返し後の接着性</td> <td>標準状態</td> <td colspan="3" rowspan="2">2.0N/mm²以上 ふくれ、はがれがないこと</td> </tr> <tr> <td>吸水状態</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">工法に必要な性能</td> <td>外観性</td> <td colspan="3">被覆にしわ、むら、はがれ、割れのないこと</td> </tr> <tr> <td>耐アルカリ性</td> <td colspan="3">水酸化カルシウムの飽和溶液に30日間浸漬しても被覆にふくれ、割れ、軟化、溶出がないこと</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">注1) 硫黄侵入深さにおける被覆厚さは、種別毎に防食被覆材料製造業者が設定する設計厚さとする。 注2) 初期接着性試験の試験材齢は、標準状態・吸水状態とも14日及び28日とする。</p>		種別	1種	2種	3種	基本的な性能	耐硫酸性	pH3の硫酸水溶液に30日間浸漬しても	pH1の硫酸水溶液に30日間浸漬しても	10%の硫酸水溶液に45日間浸漬しても	被覆にふくれ、割れ、軟化、溶出がないこと				遮断性	硫黄侵入深さ	—	—	10%の硫酸水溶液に120日間浸漬した時の硫黄侵入深さが被覆層の設計厚さ ^{注1)} に対し10%以下であること、かつ、200μm以下であること	透水性	透水量が0.25g以下	透水量が0.20g以下	透水量が0.15g以下	初期接着性 ^{注2)}	標準状態	2.0N/mm ² 以上			吸水状態	温水浸漬後の接着性	標準状態	2.0N/mm ² 以上 ふくれ、はがれがないこと			吸水状態	冷熱繰返し後の接着性	標準状態	2.0N/mm ² 以上 ふくれ、はがれがないこと			吸水状態	工法に必要な性能	外観性	被覆にしわ、むら、はがれ、割れのないこと			耐アルカリ性	水酸化カルシウムの飽和溶液に30日間浸漬しても被覆にふくれ、割れ、軟化、溶出がないこと	
	種別	1種	2種	3種																																																																																																	
基本的な性能	耐硫酸性	pH3の硫酸水溶液に30日間浸漬しても	pH1の硫酸水溶液に30日間浸漬しても	10%の硫酸水溶液に45日間浸漬しても																																																																																																	
		被覆にふくれ、割れ、軟化、溶出がないこと																																																																																																			
	遮断性	硫黄侵入深さ	—	—	10%の硫酸水溶液に120日間浸漬した時の硫黄侵入深さが被覆層の設計厚さに対し10%以下であること、かつ、200μm以下であること																																																																																																
		透水性	透水量が0.25g以下	透水量が0.20g以下	透水量が0.15g以下																																																																																																
	初期接着性	標準状態	2.0N/mm ² 以上																																																																																																		
		吸水状態																																																																																																			
	温水浸漬後の接着性	標準状態	2.0N/mm ² 以上 ふくれ、はがれがないこと																																																																																																		
		吸水状態																																																																																																			
	冷熱繰返し後の接着性	標準状態	2.0N/mm ² 以上 ふくれ、はがれがないこと																																																																																																		
		吸水状態																																																																																																			
工法に必要な性能	外観性	被覆にしわ、むら、はがれ、割れのないこと																																																																																																			
	耐アルカリ性	水酸化カルシウムの飽和溶液に30日間浸漬しても被覆にふくれ、割れ、軟化、溶出がないこと																																																																																																			
	種別	1種	2種	3種																																																																																																	
基本的な性能	耐硫酸性	pH3の硫酸水溶液に30日間浸漬しても	pH1の硫酸水溶液に30日間浸漬しても	10%の硫酸水溶液に45日間浸漬しても																																																																																																	
		被覆にふくれ、割れ、軟化、溶出がないこと																																																																																																			
	遮断性	硫黄侵入深さ	—	—	10%の硫酸水溶液に120日間浸漬した時の硫黄侵入深さが被覆層の設計厚さ ^{注1)} に対し10%以下であること、かつ、200μm以下であること																																																																																																
		透水性	透水量が0.25g以下	透水量が0.20g以下	透水量が0.15g以下																																																																																																
	初期接着性 ^{注2)}	標準状態	2.0N/mm ² 以上																																																																																																		
		吸水状態																																																																																																			
	温水浸漬後の接着性	標準状態	2.0N/mm ² 以上 ふくれ、はがれがないこと																																																																																																		
		吸水状態																																																																																																			
	冷熱繰返し後の接着性	標準状態	2.0N/mm ² 以上 ふくれ、はがれがないこと																																																																																																		
		吸水状態																																																																																																			
工法に必要な性能	外観性	被覆にしわ、むら、はがれ、割れのないこと																																																																																																			
	耐アルカリ性	水酸化カルシウムの飽和溶液に30日間浸漬しても被覆にふくれ、割れ、軟化、溶出がないこと																																																																																																			

農業集落排水施設のコンクリート防食の手引き

正誤箇所	誤	正
<p>付属資料 P.1</p> <p>付属資料 1. 防食被覆層の品質試験方法</p> <p>塗布型ライニング工法の防食被覆層の品質試験方法</p> <p>(2) 試験</p>	<p>(2) 試験</p> <p>試験は、JIS A 7502-2^{:2020} の 5.2 試験による。</p> <p>試験体は、防食被覆材料製造業者の定める方法で、試験機関が作製する。ただし、試験機関の監督の下で、防食被覆材料製造業者が作製してもよい。</p>	<p>(2) 試験</p> <p>試験は、JIS A 7502-2^{:2020} の 5.2 試験による。</p> <p>試験体は、防食被覆材料製造業者の定める方法で、試験機関が作製する。ただし、試験機関の監督の下で、防食被覆材料製造業者が作製してもよい。</p> <p>なお、JIS A 7502-2^{:2020} の 5.2 試験に定めない、初期接着性試験、温水浸漬後の接着性試験、冷熱繰返し後の接着性試験は、以下による。</p> <p>1) 初期接着性試験</p> <p>① 試験体の作製</p> <p>試験体の作製は、以下による。</p> <p>a) 試験基板は、製造業者の定める施工方法によって、JIS A 5371の附属書B(舗装・境界ブロック類)に規定する推奨仕様B-1(平板)の呼び寸法300の普通平板とする。</p> <p>試験基板の塗付け面と数量は、標準状態及び吸水状態ともに、片面2枚(各材齢に対し各1枚)とする。</p> <p>b) 標準状態の試験に用いる試験体は、表面処理を行った後の試験基板の表面含水率が8%以下になるまで乾燥させた後、JIS A 7502-2^{:2020} 附属書G G3.2により作製する。</p> <p>吸水状態の試験に用いる試験体は、素地調整材を塗付ける前に、試験板を23±2℃の清水中に24時間浸漬した後、清潔な布で表面水分を拭き取り、直ちに素地調整材を塗付ける。なお、素地調整の前にプライマーを塗布する工法の場合は、同様な方法でプライマーと素地調整材を塗布する。</p> <p>c) 素地調整材の塗付け後、直ちに試験体の1/2を水中に浸漬し養生する。</p> <p>d) 24時間後、防食被覆材をJIS A 7502-2^{:2020} 附属書G G3.2に従って塗付ける。防食被覆材の塗付け時以外は、試験体の1/2を水中に浸漬した状態で試験材齢まで養生する。</p> <div data-bbox="2000 1381 2674 1564" style="text-align: center;"> </div> <p>② 試験方法</p> <p>接着試験は、JIS A6909^{:2014} 7.11.2(試験の手順)に準じて行う。</p> <p>ただし、試験装置は、建研式接着力試験機を用いて行う。試験材齢は14日及び28日とし、試験箇所数は試験片1枚当たり7箇所試験する。試験結果の接着力の値には試験材齢を付ける。</p>

正誤箇所	誤	正
<p>付属資料 P.1</p> <p>付属資料1. 防食被覆層の品質試験方法</p> <p>塗布型ライニング工法の防食被覆層の品質試験方法</p> <p>(2) 試験</p>		<p>2) 温水浸漬後の接着性試験</p> <p>① 試験体の作製</p> <p>試験体の作製は、以下による。</p> <p>a) 試験基板は、製造業者の定める施工方法によって、JIS A 5371の附属書B(舗装・境界ブロック類)に規定する推奨仕様B-1(平板)の呼び寸法300の普通平板とする。</p> <p>試験基板の塗付け面と数量は、標準状態及び吸水状態ともに、片面1枚とする。</p> <p>b) 標準状態の試験に用いる試験体は、表面処理を行った後の試験基板の表面含水率が8%以下になるまで乾燥させた後、JIS A 7502-2^{:2020} 附属書G G3.2により作製する。</p> <p>c) 吸水状態の試験は、素地調整材を塗付ける前に、試験基板を23±2℃の清水中に24時間浸漬した後、清潔な布で表面水分を拭き取り、直ちに素地調整材を塗付ける。</p> <p>なお、素地調整の前にプライマーを塗布する工法の場合は、同様な方法でプライマーと素地調整材を塗布する。</p> <p>d) 素地調整材の塗付け後、直ちに試験体の1/2を水中に浸漬し養生する。</p> <p>e) 24時間後、防食被覆材をJIS A 7502-2^{:2020} 附属書G G3.2に従って塗付ける。防食被覆材の塗付け時以外は、試験体の1/2を水中に浸漬した状態で試験材齢まで養生する。</p> <div data-bbox="1991 1045 2665 1213" style="text-align: center;"> <p>The diagram shows a cross-section of a test specimen. It consists of a concrete substrate (試験体) with a protective coating (防食被覆層) on top. The coating is 30mm thick. The substrate is 30mm thick. The specimen is partially submerged in water (水面). The water level is 30mm below the top of the substrate, and 30mm above the bottom of the substrate.</p> </div> <p>② 試験方法</p> <p>防食被覆材の塗付け終了後、14日の材齢で、試験体を水中(23±2℃)に24時間浸漬した後取り出し、ただちに60℃の温水に24時間浸漬する。この操作を10回繰り返す。</p> <p>繰り返し操作の途中で試験を中断する場合は、水中浸漬状態を継続する。</p> <p>試験期間は2ヶ月以内とする。</p> <p>接着性試験は、JIS A 6909^{:2014} 7.11.2項に準じて行う。ただし、試験装置は、建研式接着力試験機を用いて行う。試験箇所数は試験片1枚当たり7箇所試験する。</p>

正誤箇所	誤	正
<p>付属資料 P.1</p> <p>付属資料1. 防食被覆層の品質試験方法</p> <p>塗布型ライニング工法の 防食被覆層の品質試験方法</p> <p>(2) 試験</p>		<p>3) 冷熱繰返し後の接着性試験</p> <p>① 試験体の作製</p> <p>試験体の作製は、以下による。</p> <p>a) 試験基板の作製は、JIS A 7502-2:2020 附属書G G3.2 a)による。 試験基板の塗付け面と数量は、標準状態及び吸水状態ともに、片面7枚とする。</p> <p>b) 標準状態の試験に用いる試験体は、表面処理を行った後の試験基板の表面含水率が8%以下になるまで乾燥させた後、JIS A 7502-2:2020 附属書G G3.2により作製する。</p> <p>c) 吸水状態の試験に用いる試験体は、素地調整材を塗付ける前に、試験基板を23±2℃の清水中に24時間浸漬した後、清潔な布で表面水分を拭き取り、直ちに素地調整材を塗付ける。 なお、素地調整の前にプライマーを塗布する工法の場合は、同様な方法でプライマーと素地調整材を塗布する。</p> <p>d) 素地調整材の塗付け後、直ちに試験体の1/2を水中に浸漬し養生する。 24時間後、防食被覆材をJIS A 7502-2:2020 附属書G G3.2に従って塗付ける。防食被覆材の塗付け時以外は、試験体の1/2を水中に浸漬した状態で試験材齢まで養生する。</p> <div data-bbox="2003 1102 2686 1270" style="text-align: center;"> </div> <p>② 試験方法</p> <p>防食被覆材の塗付け終了後、14日の材齢で、JIS A 6909:2014 7.11.1項に準じて試験を行う。試験体を水中(23±2℃)に18時間浸漬した後取り出し、ただちに-20±2℃の恒温槽内で3時間冷却した後、50±3℃の恒温槽内で3時間加熱する。この操作を10回繰り返す。 繰り返し操作の途中で試験を中断する場合には、加温3時間終了後とし、一般養生室で静置し、試験期間は4週間を越えてはならない。 接着性試験は、JIS A 6916:2014 7.10.2項に準じて行う。ただし、試験箇所数は試験片1枚当たり1箇所で行う。</p>

正誤箇所	誤	正																																
<p>付属資料 P.93</p> <p>付属資料 8. 特記仕様書の記載例（補修工事）</p> <p>4章 検査</p> <p>（4）防食被覆工の検査</p> <p>2）確認検査の実施時期</p>	<p style="text-align: center;">塗布型ライニング工法の現場確認検査基準</p> <table border="1" data-bbox="543 386 1605 724"> <thead> <tr> <th>検査項目</th> <th>判定基準</th> <th>検査の方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">外観</td> <td>表面に防食性能を損なう欠陥や塗りむらがなく平滑に仕上がっていること</td> <td>目視による</td> </tr> <tr> <td>ピンホールがないこと 検査対象：3種 検査範囲：原則として防食被覆層全面</td> <td>ピンホール試験 又は目視</td> </tr> <tr> <td>樹脂硬化不良がないこと</td> <td>指触, 打音による</td> </tr> <tr> <td>モルタルとの接着強さ</td> <td>平均値が 2.0N/mm², かつ最小値 1.5N/mm² 以上であること</td> <td></td> </tr> <tr> <td>防食被覆層の施工厚</td> <td>試験の平均値が, 当局で承諾した防食被覆厚以上であること</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注 1) 防食被覆層の外観検査は, 良好な防食性能の確保を目的として行うものであり, 多少の色相差, 軽微な樹脂ダレなどは, 美粧性を損なうものであっても, 防食性能上欠陥とならないものについては判定対象としない。ただし, 極端な色むら, 塗りむらは判定の対象とする。</p> <p>注 2) 防食性能を損なう防食被覆層の欠陥には, ピンホール, 硬化不良などがあり, 被覆層の浮き, ふくれ（ブリストア）などの接着不良部分も防食被覆層の耐久性を損なうものとして判定対象とする。</p> <p>注 3) ピンホール試験は, 3種について行う。また, 試験可能なものについては, 原則として防食被覆層全面について行うものとする。</p> <p>注 4) ピンホール試験はコンクリートの通電状況や防食被覆層により機器による試験が実施できない場合, 監督員はこれを確認し目視検査等を実施する。</p>	検査項目	判定基準	検査の方法	外観	表面に防食性能を損なう欠陥や塗りむらがなく平滑に仕上がっていること	目視による	ピンホールがないこと 検査対象：3種 検査範囲：原則として防食被覆層全面	ピンホール試験 又は目視	樹脂硬化不良がないこと	指触, 打音による	モルタルとの接着強さ	平均値が 2.0N/mm ² , かつ最小値 1.5N/mm ² 以上であること		防食被覆層の施工厚	試験の平均値が, 当局で承諾した防食被覆厚以上であること		<p style="text-align: center;">塗布型ライニング工法の現場確認検査基準</p> <table border="1" data-bbox="1712 386 2775 724"> <thead> <tr> <th>検査項目</th> <th>判定基準</th> <th>検査の方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">外観</td> <td>表面に防食性能を損なう欠陥や塗りむらがなく平滑に仕上がっていること</td> <td>目視による</td> </tr> <tr> <td>ピンホールがないこと 検査対象：3種 検査範囲：原則として防食被覆層全面</td> <td>ピンホール試験 又は目視</td> </tr> <tr> <td>樹脂硬化不良がないこと</td> <td>指触, 打音による</td> </tr> <tr> <td>モルタルとの接着強さ</td> <td>平均値が 1.5N/mm², かつ最小値 1.2N/mm² 以上であること</td> <td></td> </tr> <tr> <td>防食被覆層の施工厚</td> <td>試験の平均値が, 当局で承諾した防食被覆厚以上であること</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注 1) 防食被覆層の外観検査は, 良好な防食性能の確保を目的として行うものであり, 多少の色相差, 軽微な樹脂ダレなどは, 美粧性を損なうものであっても, 防食性能上欠陥とならないものについては判定対象としない。ただし, 極端な色むら, 塗りむらは判定の対象とする。</p> <p>注 2) 防食性能を損なう防食被覆層の欠陥には, ピンホール, 硬化不良などがあり, 被覆層の浮き, ふくれ（ブリストア）などの接着不良部分も防食被覆層の耐久性を損なうものとして判定対象とする。</p> <p>注 3) ピンホール試験は, 3種について行う。また, 試験可能なものについては, 原則として防食被覆層全面について行うものとする。</p> <p>注 4) ピンホール試験はコンクリートの通電状況や防食被覆層により機器による試験が実施できない場合, 監督員はこれを確認し目視検査等を実施する。</p>	検査項目	判定基準	検査の方法	外観	表面に防食性能を損なう欠陥や塗りむらがなく平滑に仕上がっていること	目視による	ピンホールがないこと 検査対象：3種 検査範囲：原則として防食被覆層全面	ピンホール試験 又は目視	樹脂硬化不良がないこと	指触, 打音による	モルタルとの接着強さ	平均値が 1.5N/mm ² , かつ最小値 1.2N/mm ² 以上であること		防食被覆層の施工厚	試験の平均値が, 当局で承諾した防食被覆厚以上であること	
検査項目	判定基準	検査の方法																																
外観	表面に防食性能を損なう欠陥や塗りむらがなく平滑に仕上がっていること	目視による																																
	ピンホールがないこと 検査対象：3種 検査範囲：原則として防食被覆層全面	ピンホール試験 又は目視																																
	樹脂硬化不良がないこと	指触, 打音による																																
モルタルとの接着強さ	平均値が 2.0N/mm ² , かつ最小値 1.5N/mm ² 以上であること																																	
防食被覆層の施工厚	試験の平均値が, 当局で承諾した防食被覆厚以上であること																																	
検査項目	判定基準	検査の方法																																
外観	表面に防食性能を損なう欠陥や塗りむらがなく平滑に仕上がっていること	目視による																																
	ピンホールがないこと 検査対象：3種 検査範囲：原則として防食被覆層全面	ピンホール試験 又は目視																																
	樹脂硬化不良がないこと	指触, 打音による																																
モルタルとの接着強さ	平均値が 1.5N/mm ² , かつ最小値 1.2N/mm ² 以上であること																																	
防食被覆層の施工厚	試験の平均値が, 当局で承諾した防食被覆厚以上であること																																	